



識別

イエスと共に歩む

「もし、私たちが、呼ばれたのであれば、勇気を持ちましょう。私たちの信仰が、助けてくれます。私たち自身が、聖なる師の学校に行きましょう。」(PO会の精神)

イエスと共に歩むことは、信仰に基盤を置く独自の人生を築くことです。私たちは、しばしば、問いかけとして、また応えとして、信仰を生きるのです。

人は皆、神からの呼びかけを受けます。そして、私たちが出ず、その応えの中で、神を発見し、出会うことを学ぶのです。何のために、神は、あなたを呼ぶのでしょうか？

「まず、私たちの内に神の国を築きましょう。その正義と栄光を探しましょう。」(PO会の精神)

識別の時

大きな変化のあるこの時代に、私たちは、生きています。成熟していること、選択することを知ること、自由であることが、識別する際、求められることです。私たちに示されることは、すべて良いものでしょう。しかしながら、それらが、本当に神から来るものであるか、調べる必要があります。なぜなら、常に、示されるものが、すべて良いものであり、最も都合のいいものであるとは、限らないからです。

「私たちが、どのような精神に従っているのか、調べる必要

があります。私たちは、靈魂を救うために遣わされたのです。失うためでは、ありません。」(PO 会 の精神)

なぜ、私たちには、識別が必要なのでしょうか？

なぜなら、この世界の問題は、靈的な問題でもあるからです。識別するということは、神との関係を生きる、常に、新しい姿勢なのです。それは、御父の計画と一つになる道であり、聖靈の賜物です。

識別の目的は、自分自身の刷新と変化です。この変化の姿勢は、一つの知識からほかの知識への歩みであり、内面の変化と大きな信頼が、現れてきます。私たちは、この世の価値から、イエスキリストが示してくださる価値へと移行していくのです。あらゆる選択をする際の識別は、ますます必要不可欠になります。あなたの人生において、神と話し、識別する必要のある時はありますか？

「どれほど素晴らしく、重要な働きであっても、使命感なしには、いかなる姉妹であっても、働いてほしくありません。修道者のグループとして、またそのメンバーとして、特別な使命があり、共通善のために、たとえわずかであっても、実行する方法があるのです。」(PO 1851年)

「共同体は、常に現状を、み言葉に照らして見、現状を通して神のみ旨のしるしを探求する。」(会則 33参照)

1ヨハ4：1

「愛する者たち、どの靈も信じるのではなく、神から出た靈かどうかを確かめなさい。」

ガラ5：22-25

「靈の結ぶ実^は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です..」

エフェ5：8-9

「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています..」

「あなたがおっしゃっている決断は、私には、あまりにも早急過ぎると、思われます。決断に際しては、熟考と相談が必要です.....決して、自分の望みを、探さないでください。むしろ、目上の方たちの声に現れている、私たちの主なる神のみ旨を、実行してください。もう少し、冷静になってください。」

(MSP 1853年)

「必要なことをすべて行うため、神に識別と知恵の靈を、願ってください。時期を逸することは、ありません...良い意向のもとでは、全てが、可能です。」(PO, 1863年)



賜物

「共同体の善のために、一人一人が、賜物を、頂いています。」

(1コリ7:7 12:7) (PO会の精神)

私の賜物は？

愛の使命を果たすため、自己実現のため、神は、恵みを注がれ、一人一人のうちに、ご自分を現わされます。私たちは皆、贈り物として、賜物を与えられています。それは、私たちが、学習して得たのではなく、私たちと共に、生まれ出たものなので、私たちの行い、あり方、生き方のうちに表れます。賜物は、私たちにアイデンティティーを与えます。私たちの最良のものを引きず。

賜物は、内にあります。私たちのものであり、私たちを形作り出してくれます。

賜物は、個人的な贈り物であり、それゆえ、私たちは、他者とは違う、唯一の存在なのです。この賜物なしには、「私が、私であること」は、なく、他の誰かになることでしょう。

アイデンティティーを確認する、一人一人の賜物は、愛の一つの側面であり、私たちが、愛しながら生きるために、与えられました。

人生における真の偉大さ、その使命、任務は、愛することです。神の愛のみ顔を示すことです。私たちの愛と共に、神の善を示すことです。人間は、愛なしに、生きることができません

。

聖霊は、心の中で働きます。心の中心の最も深いところ、人間の愛が生まれ出るところで、働くのです。

それは、恵みの中の恵みです。そして、一人一人は、その賜物により、神特有の善と美しさを、映し出すことが出来るのです。このように、オルミエル師は、私たちに、賜物について、思い出させてくださいます。

特に聖パウロのコリント人への手紙の言葉が、オルミエル師の心に残りました。彼は、この言葉を深く理解し、私たちの内に浸透するのを助けてくださいました。

私たちの偉大さの傍らに、私たちを形作っている、弱さや脆さが存在し、そのことを無視することは、出来ません。私たちが持っている傷から、反抗的なふるまいや自分を守ろうとする行動が出るのです。

これらの行動は、賜物を覆い隠し、葬りさってしまいます。私たちの最良のものから断ち切られ、賜物の体験を曇らせてしまうのです。

それぞれの人間には、これらの矛盾があるにもかかわらず、誰も、何も、内に持っている富を、奪い去ることは、出来ません。その賜物というのは、日々の生活の中で、はっきりと表れ、行動においても、明らかになるのです。

人は、それぞれの制約について、また外からの、そして自分自身の内から来る、強力な力に打ちのめされないように、それらすべてに、対処しなければなりません。

・ 1 ペト 4 : 10

ただ神からの贈り物である、敏感な心、呼びかけだけが、人生における使命を見ることが出来、賜物を生きることが出来るのです。つまり自分自身に誠実に生きることです。私たち

に、真の幸福を味わわせ、内的満足感で満たさせます。ある程度の自己充足、自分が唯一の特別な存在であることを感じる事が出来るのです。

参照箇所：

- ・エレ 1 : 5
- ・マタ 25 : 14 - 30
- ・ 1 コリ 12、 13
- ・ 2 コリ 4 : 7
- ・ 1 ペト 4 : 10

